Community Action Development Organisation

キャン ドゥ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2011 年 12 月 [第 57 号]

CanDo の活動の方向性 **次の活動に向けて** 永岡 宏昌

ナイロビ便り **ケニア軍のソマリア侵攻後のケニアの状況** 景平 義文

ミグワニ県における幼稚園教師への保健研修を担当して 三浦 明子

新スタッフの自己紹介 石田 純哉／伊東 彩

インターンを終えて 廣本 直希

国際基督教大学の授業 佐久間典子

ザンビアにおける調査の報告 藤目 春子

事務局から

写真は、カジタンザウ幼稚園の青空教室

CanDo の活動の方向性

次の活動に向けて

代表理事　永岡　宏昌

当会は、1998 年にケニア共和国ムインギ東県（当時はムインギ県）ヌー郡で活動を開始しました。そして、隣接するムイ郡、グニ郡で、ヌー郡の活動経験を踏まえて改善した活動や、ニーズに対応した新たな活動を展開しました。

活動の対象者を広げて、また、前の郡に戻る。当会の事業姿勢を信頼した行政から、子どもの妊娠など深刻かつ繊細な課題への取り組みが期待され、それにこたえて活動を開始する。このような繰り返しの中で、活動の規模を拡大するとともに、質の向上や効率化に取り組んで、14 年が過ぎました。

現在、当会がムインギ東県から退出する準備期間と位置づけて、スタッフ、専門家の投入を低く抑え、重要度が高い活動に限定し、集中的に投入する活動は他の地域に移行し始めました。

今年、西隣のミグワニ県で集中的な活動を開始しました。ミグワニ県は、同じ国会議員選挙区で地域リーダーのつながりがあったり、行政官の人事交流があったり、ムインギ東県で教員をした人が退職してミグワニ県に戻ったりしています。この人的なネットワークがあること、すなわち、当会の活動方針が「ある程度は理解されている場所」であること、その理解に依拠することによって、短期間で集中的な投入を始めることができました。

そして、次の活動の場所として、ミグワニ県の西に隣接するマシンガ県の検討を始めました。マシンガ県は、行政区分が大きく異なるためか、ムインギ東県との人的交流はほとんどみられません。実際、行政官や教育官、小学校校長と話しても、当会のことをほとんど知りません。このような状況の中で、地域の課題について理解を深めて、これまでのさまざまな活動の効果的な組み合わせを考えること。多様な地域の関係者に、当会の活動方針を理解してもらい、合意し協働の活動を形成すること。いわば、ムインギ東県で 14 年かけて学ばせてもらったことを、マシンガ県で「とりあえず集大成」することを目指したいと思います。

さらに、マシンガ県の活動の次の段階として、ケニア以外の国での活動を検討し始めました。今年 2 月から、ザンビア共和国での予備調査を行なっています。近い将来、ケニアでの経験をもとに、新たな国で、発掘した地域の人材が若い日本人と一緒に育ち、地域の人々が自ら「豊かさ」を規定し、地域の課題を解決しながら「豊かさ」を達成していく協力活動を形成したいと考えています。

ナイロビ便り

ケニア軍のソマリア侵攻後のケニアの状況

調整員　景平　義文

9 月末から 10 月初めにかけてケニア領内でアル・シャバーブの犯行と疑わしき外国人の誘拐事件が連続して発生。その後、ケニア軍がアル・シャッバーブの勢力を駆逐するためにソマリア領内に侵攻。その報復テロがナイロビで続けて起こったという報道を、一時帰国中の日本で見て、ケニアは「戦時下」のような緊張状態にあるのかと想像していました。

11 月初旬に戻ってきた 2 か月半ぶりのナイロビは、確かにどこもかしこも警備が厳重になっていて、ショッピングセンターに入るときは必ず荷物検査があり、金属探知機で調べられるようになっていました。ナイロビからムインギを結ぶ幹線道路でも、警察による検問所の数が増えています。新聞を見れば、連日ケニア軍のソマリア侵攻の記事が載っていて、「ケニア軍が〇〇の拠点を制圧」というような景気の良い記事が目につきます。そして、今でもソマリア国境に近い地域で断続的にテロ事件が起きています。

ソマリア侵攻絡みで起きていることをこのように並べたてると、ケニアはまさに「戦時下」にあるように思えてきます。それは事実であり、常とは異なる状況に対応するために、ナイロビ事務所でも安全管理に今まで以上に注意を払わなければならない状況になっています。

しかしながら、ムインギの現場に出ると、「戦時下」であることが急に絵空事のように思えてくるのもまた事実です。ケニア軍やアル・シャバーブのことは人々の生活に関わり合いのないことであり、村の人々は常と全く変わらぬ生活を送っています。悠々と人が営みつづけることは、ごくごく当たり前のことなのですが、その手堅さに感嘆すらしてしまいます。

人を預かり、事業を預かるナイロビ事務所の調整員として、安全管理を第一とすることは当然のことです。しかし、その一方で、今自分たちにできることをムインギの人たちのように営々と続けていくことが大切であり、それが自分たちの役割であることを再認識させられます。

---

10 月 13 日　ケニア北東部州ダダーブ難民キャンプで NGO スタッフ誘拐
10 月 16 日　ケニア軍がソマリアに侵攻
10 月 24 日　ナイロビ市内で 2 件の爆破事件
10 月 27 日　北部国境マンデイラで教育官襲撃
11 月 5 日　北東部州ガリッサの教会に手榴弾
11 月 15 日　ダダーブで警察車両が取り付けられた爆弾の遠隔操作により爆破
12 月 7 日　ケニア軍の AMISOM（アフリカ連合ソマリアミッション）への統合をケニア議会が決定

ミグワニ県における幼稚園教師への保健研修を担当して

インターン　三浦 明子

今回ミグワニ県で初めての幼稚園教師への研修を行なうにあたり、まず 1 か月かけて全 6 校の幼稚園を見学し、幼稚園の様子を知ることから始めました。

ケニアの幼稚園において、校長、教師、保護者ともに関心は読み書きが中心で、小学校に入るまでにどれだけ成績を伸ばすかにに力を注いでいる傾向がある、という印象を受けました。当初は、遊びより教育が中心のケニアの幼児教育に多少の違和感を覚えました。しかし見学を重ね、それは私の固定概念であることに気付きました。子どもたちは大きな声で数字やアルファベットを読み、楽しそうに勉強をしています。日本の保育がどこの国でも通じるわけではなく、その国に合った保育が一番よいことを子どもたちの生き生きとした様子を見て実感しました。

ここケニアではこの年齢からの勉強が求められています。教師は子どもたちが楽しんで学べるよう麻での手作りポスターを教材にし、授業を通し自然に保健の知識を身につけながら読み書きを学べるさまざまな工夫をしています。子どもたちは「マリモ（スワヒリ語で「先生」）、マリモ」と積極的に手をあげ、もっと勉強したいという姿勢すら感じます。そう理解した時、今回の研修に何が必要か少しずつ見えてきました。

子どもが幼稚園で勉強するには健康であることが必要不可欠です。このことを教師・保護者・校長がしっかり理解するために、保健の基礎知識とエイズ教育を入れ、「幼稚園での活動」に焦点を置いた研修内容を組み立てました。深刻な食糧不足、水不足、栄養不良、さまざまな疾患が取り巻く環境の中で、心も体も元気で勉強に集中できる基礎体力・環境作りを目指します。

第 1 課程の研修の中では、教師の日常的な気配りと簡単な改善の取り組みの例を取り入れました。目に見えた大きな変化ではなく、毎日重ねられ、ずっと活用されることを考えています。例えば、立ったままの食事は、ほこりが立ち、衛生上よくありません。それだけではなく、落ち着いて噛んで食べないことにより、すぐにお腹がすくことで集中力が途絶えてしまいます。けれども、廃材の木で作った長椅子や麻のマットに座って食事をすれば解決できます。

第 2 課程では、これを実践に移していくために必要不可欠な保護者と校長の協力をどのようにして促すか、ということに焦点をあてることを考えています。私の研修期間が 11 月で修了するので、別の担当者が保護者と校長を巻き込んだ保育について研修を行なう予定です。

ナイロビ事務所に 2 人の日本人調整員が加わりました

新スタッフの自己紹介

調整員　石田（いしだ） 純哉（じゅんや）

はじめまして。6 月後半より CanDo ナイロビ事務所でお世話になっています石田純哉と申します。簡単に自己紹介させていただきます。

私は愛知県犬山市出身、数字を愛するバレンタイン・デー産まれの 31 歳、男性、未婚です。CanDo の活動に対しては、以前、そして当初は、本当に「住民たちの自律的行動を促す」活動をしているのかな、という疑問を持っていました。実際にケニアで活動を始めて、滞在する期間が長くなればなるほど、「本当にそうやって活動しているのだな」、と感動を感じています。その本質を早く理解したいと思っています。

私はこれまで日本の学校の教員、NGO のボランティアスタッフ、青年海外協力隊などいろいろな経験をしてきましたが、根本にあるのは、「他人が何かをできるようになることを喜ぶ」という考え方です。考え方というより、ある意味性癖です。そういう、感覚を持ち続けられるケニアでの活動になればなと思います。

似顔絵は「インターン三浦明子さん作（石田）」

調整員　伊東（いとう） 彩（あや）

2010 年 2 月から 7 月までインターンとして CanDo に関わり、今年の 10 月からは現地調整員として再び働かせていただいています。インターンの期間は地域保健事業を担当していましたが、現在は主に学校保健事業を担当しています。

私は今年の 9 月に大学を卒業したのですが、新社会人として国際協力開発の仕事につけるとは、まったく想像もしていませんでした。私はいたってフツーの女子大生でした。ショッピング、化粧（日本とケニアの顔が違います）、おしゃれ大好きです。居酒屋でバイトしていました。本当にどこにもいる女子大生です。

そんな私が CanDo のスタッフになって、今、周りには、開発協力に携わっていく人間として、CanDo のスタッフとして、学ぶべきことがゴロゴロころがっています。それらをひとつずつ消化しながら、いずれは国際協力分野の仕事を担える人間になれるよう、少しずつ少しずつ成長していけたらと思っています。

写真は「せっかくなので（？）日本の顔を載せさせていただきます（伊東）」

インターンを終えて

カムルユニ小学校との出会いを経て理解した教室建設の意義

廣本　直希

2011 年 2 月からの 6 か月間、インターンとして教室建設事業に関わる中でたくさんの人、開発の難しさ、現地の人々が抱える問題と出会った。

初めのうちは教室建設事業が目指す保護者たちの学校運営能力の向上の意義が分からず苦悩していた。しかし、ヌー郡の奥地にあるカムルユニ小学校との出会いを経て、教室建設の目指すものの意義を理解していった。その小学校は私が経験した半年間の中では最も難しい問題に直面した小学校であっただろう。問題は、干ばつの影響で建設資金が集まらなくなったことから始まった。

小学校に何度も足を運び、保護者たちと会議を行ない、解決策を話し合った。このときから、CanDo の活動は現地の人と共に生き、共に社会的問題の解決を目指すものであると自分なりに考えるようになった。同時に、CanDo は長い時間をかけて現地の人々との関係を繊細に積み上げてきたことを痛感した。そうした繊細な仕事に関わらせていただいたこと、どんなに仕事が出来なくても、厳しくそして優しく、最後まで指導してくださったスタッフの方々や共に仕事をしたインターンの方々に、この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

国際基督教大学の授業で

学生グループ作成ビデオ～ゲスト講義～グループ研究発表～スカイプでの質疑応答

佐久間　典子

11 月 8 日、国際基督教大学教養学部の長尾眞文教授の授業で「開発協力の実践事例」のゲスト講義を行ないました。昨年の学生グループが製作したCanDoの紹介ビデオをまず上映。写真を見せながら、活動とインターン制度について話をしました。次に今年、CanDo を活動テーマとしたグループが発表。最後に、ナイロビ事務所にいる永岡宏昌代表理事が、スカイプで学生からの質問に答えました。その日のうちに、感想が書かれた PDF68 枚がメールで届きました。

「CanDo の住民の意見、意思重視のプロジェクトの進め方に共感」

「教育＋α という形で保健や環境の取り組みを包括的に行なっている点が興味深い」

「建設するときの職人の賃金が保護者によって作られているという事実が印象的」

「『必要な知識は与えられるのではなく求めることで身につく』という言葉に同感」

等々を「総合力」で伝達できたようです。

ザンビアにおける調査の報告

理事　藤目春子

調査期間:　8 月半ば～10 月半ば

調査地:　ザンビア共和国首都ルサカ

中央州ムンブワ県

今年 2 月の永岡宏昌代表理事のザンビア出張後、ケニアでの地域開発の経験を生かしてザンビアで活動できるか、話し合いが行なわれ、その実施可能性を探るのが、今回の調査の目的でした。援助政策環境、事業候補地の状況、NGO 活動をめぐる状況等を、聞き取りや資料収集と現場視察で調べました。特に、地域と関わる入り口として、コミュニティ学校について詳しく調査しました。これは地域の人たちが学校を建設し、教員を地域から雇用し、教員への支払いも地域が担い、保護者・学校委員会運営し、全国に多数あります。主な調査結果は以下の通りです。

●援助政策環境

・財政支援一辺倒ではなく、プロジェクト型の開発協力活動を実施する余地は十分にある。

・コミュニティ学校は近年、ドナー・NGO が支援するのみでなく、公教育システムにも正式に取り込まれつつあり、コミュニティ学校を通じた地域開発協力の実施可能性は高い。

●コミュニティ学校の現状と課題

・関係者にとって、コミュニティ学校を運営していくための資金に対する関心が最も高い。

・コミュニティ学校の物的ニーズ（施設、設備、教材等）は非常に高い。

・コミュニティ学校に政府教員が派遣された場合、コミュニティ教員との関係に課題が発生する危険もある。

●中央州ムンブワ県の状況

・県教育事務所はコミュニティ学校を管理・監督しているが、政策と現場慣行との乖離やデータの管理不足による混乱等が懸念される。

・教育分野で活動する主な NGO が 2 団体存在する。その事業地の範囲はかなり広く、協働するのか住み分けるのか等、関係構築の方向性に考慮が必要。

●その他

・NGO 登録も就労許可も、手順を踏めば特に問題ないと思われる。

・政治と関連する治安の安定度は高い。

調査の結果、ザンビアでの活動を阻害するような要因は特に見られませんでした。2013 年に試験的事業に取り組むことが計画されています。

事務局から

報告

◇国内活動

〇10 月 1 日・2 日、東京・日比谷公園で開催されたグローバルフェスタ JAPAN2011 に出展。

〇11 月 8 日、国際基督教大学教養学部の授業において、佐久間典子事務局長代理がゲスト講義、永岡宏昌代表理事がナイロビからスカイプで参加。

〇11 月 12 日・13 日、横浜・山下公園で開催されたアフリカン・フェスタ 2011 に出展。

〇12 月 8 日・9 日、立教大学観光学部の授業において、永岡がゲスト講義。

人の動き

〇9 月 1 日～30 日、道山恵美が事務局員として、引き継ぎ業務を担当。

〇9 月 18 日、藤原くみ子（ふじわら　くみこ）、23 日、水口夏希（みなくち　なつき）、25 日、竹下加奈子（たけした　かなこ）をインターンとしてケニアに派遣。

〇9 月 30 日、事務局長　玉手幸一が退職。

〇10 月 1 日～11 月 30 日、佐久間典子が事務局長代理を務める。

〇10 月 1 日～11 月 4 日、景平義文が東京事務所において資金調達と渡航関連業務を担当。

〇10 月 17 日、短期調整員　満井綾子がケニアから帰国。

〇10 月 25 日、理事　藤目春子がザンビアから帰国。

〇11 月 5 日、調整員　景平をケニアに再派遣。

〇11 月 8 日、永岡がケニアから帰国。

〇11 月 27 日、横田陽紀（よこた　はるき）をインターンとしてケニアに派遣。

〇12 月 1 日から、久保内祥郎（くぼうち　よしお）が事務局長として勤務。

〇12 月 1 日に岡本優子、5 日、三浦明子が 6 か月のインターン期間を終了してケニアから帰国。

■次号は、2012 年 3 月発行の予定です。

CanDo アフリカ［第 57 号］　2011 年 12 月 16 日発行

発行人:　永岡宏昌　編集人:　佐久間典子

発行:　特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会（CanDo）

〒110-0001　東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室

電話／FAX:　03-3822-1041

電子メール:　tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:　http://www.cando.or.jp/

郵便振替:　口座番号 00150－2－15129　加入者名 アフリカ地域開発市民の会